

マレーシア華人協会(MCA)の内紛再燃か 8月役員選挙は副総裁4ポストの争奪戦

マレーシア最大の華人政党、マレーシア華人協会(MCA)の指導部では、現在のオン総裁-チュア総裁代理体制の下で主流派と反主流派が微妙な勢力均衡を維持している。しかし、両派は8月に実施予定の役員選挙で副総裁4ポストなどをめぐって激しい争奪戦を演じることが予想され、同党の「伝統」ともいえる内紛が再燃しそうな状況である。

「チームA」VS「チームB」

マレーシア華人協会(MCA)は与党連合・国民戦線(NF)でマレー系の統一マレー国民組織(UMNO:総裁=アブドゥラ首相)に次ぐ政党であり、下院(定数219)に31議席を持つ。マレーシア人口の26%を占める華人社会における保守層の権益を代表しており、同国経済の実権を握る華人経済人と中国との経済連携が緊密化する中でその政治的な存在感は増している。

問題は、MCA指導部内では数年来、主流派対反主流派の激しい内紛が続いてきたことだ。特に、オン・カティン総裁(住宅・地方政府相)-チャン・コンチョイ総裁代理(運輸相)を軸にする現体制が2003年5月に発足するまでは、リン・リョンシク前総裁(前運輸相)率いる主流派(「チームA」、以下「A」と)、リム・アーレク前総裁代理(前人的資源相)率いる反主流派(「チームB」、同「B」)の間で支持者が乱闘事件を起こすなど、MCAは政党組織としての活動がマヒする寸前の状態に陥っていた。

「A」と「B」の対立には、2001年に表面化したMCAによる有力華字紙「南洋商報」の買収を巡る政策論争など路線対立もあったが、基本的には、17年間近くトップに君臨したリン氏の退陣を要求するリム氏グループによる権力闘争の色彩が強かった。

このMCA指導部の深刻な分裂を收拾したのはマハティール前首相(当時は首相)による調停だった。前首相はベテ

ラン政治家のリン、リム両氏が同時に引退し、「A」「B」各陣営の「プリンス」的存在だったオン、チャン各副総裁をそれぞれ総裁、総裁代理に昇格させる体制刷新をMCA指導部に飲ませたのである。その後、2004年4月にMCA中央執行委員会は空席になっていた副総裁2ポストに、「A」のチュア・ソイレク保健相(「人物データ・ファイル」参照、以下《p》)と「B」のフー・アーキョー副高等教育相を選出・充当し現在の指導部が成立した。

内紛再燃の火種

現指導部は、チャン総裁代理がオン総裁を補佐する姿勢を鮮明にしていることもあり、「A」と「B」に明確に区別できるようなオープンな対立は影を潜めている。総裁と副総裁3人(うち1人は女性部長)、書記長が旧「A」、総裁代理と副総裁3人(うち1人は青年部長)が旧「B」という具合に微妙な勢力均衡が図られてきたことも大きい(「MCA指導部リスト」を参照)。

しかし、今年は3年ごとに実施される党役員改選の年に当たり、指導部の均衡が変化することも予想されるため、8月の党大会は波乱含みである。

総裁と総裁代理は現在のオン氏とチャン氏のコンビが無投票で信任される見込みだが、年功では旧「B」のリーダーであるチュア・ジュイメン副総裁(前保健相)《p》が総裁ポストに立候補する可能性も取り沙汰されている。

チュア副総裁は、昨年(2004年)3

月末に保健相ポストを旧「A」のチュア・ソイレク氏(同4月には副総裁に選出)に譲り、閣外に去ったこともあり党内の支持基盤も退潮気味。そのため、総裁選に立候補してもオン氏に対して勝ち目はないが、党の重鎮であるだけに立候補そのものが与える波紋は大きい。

激しい争奪戦が予想されるのが、党ナンバー・スリーである(専任)副総裁4ポストをめぐる争いだ。まず、現職のチュア・ソイレク氏は党本部の「世代交替」の一環として、総裁に任命権がある書記長ポストに転任する可能性が高い。その場合、旧「A」の長老、ティン・チューペー現書記長(前住宅・地方政府相)《p》が入れ替わりに副総裁選に参入するとみられる。

現職副総裁で当確圏内とされるのは、フォン・チャンオン人的資源相(旧「A」と)フー・アーキョー副高等教育相(旧「B」)である。残り2ポストをめぐる、旧「B」からはその「急先鋒」であるオン・ティーキエット青年部長(副青年スポーツ相)《p》が副総裁への転身を図るほか、過去に3期にわたって副総裁を務めた経験がある長老格のヤップ・ピアンホン氏(旧「B」)《p》が振り返りを狙うことをすでに宣言している(「副総裁選立候補予想者リスト」参照)。

マレーシア華人社会の政治的代表を選ぶ意味合いもあるMCAの役員選挙だが、党内内紛再燃の火種を抱えているだけに、地元政界通は8月の実施に前後する状況の推移に注目している。

【MCA 指導部リスト】

(任期：2002-05年)

■総裁 President

オン・カティン

(黄家定 Ong Ka Ting, Datuk Seri)

【政府】住宅・地方政府相

【派閥】旧「A」

(2003年5月23日選出)

■総裁代理 Deputy President

チャン・コンチョイ

(陳広才 Chan Kong Choy, Datuk Seri)

【政府】運輸相

【派閥】旧「B」

(2003年5月23日選出)

■副総裁 Vice President

フォン・チャンオン

(馮鎮安・博士 Fong Chan Onn, Datuk Wira Dr)

【政府】人的資源相

【派閥】旧「A」

■副総裁 Vice President

チュア・ジュイメン

(蔡銳明 Jimmy Chua Jui Meng, Datuk)

【政府】なし(前人的資源相)

【派閥】旧「B」

■副総裁 Vice President

チュア・ソイレク

(蔡細歴・医師 Chua Soi Lek, Datuk Dr)

【政府】保健相

【派閥】旧「A」

(2003年4月13日選出)

■副総裁 Vice President

フー・アーキョー

(胡垂橋 Fu Ah Kiow, Datuk)

【政府】副高等教育相

【派閥】旧「B」

(2003年4月13日選出)

■副総裁(青年部長)

Vice President/Youth Chairman

オン・ティーキエット

(翁詩傑 Ong Tee Keat, Datuk)

【政府】副青年スポーツ相

【派閥】旧「B」

■副総裁(女性部長)

Vice President/Wanita Chairman

ン・イェンイェン

(黄燕燕・医師 Ng Yen Yen, Datuk Dr)

【政府】副財務相

【派閥】旧「A」

■書記長 Secretary-General

ティン・チューペー

(陳祖排・博士 Ting Chew Peh, Tan Sri Datuk Dr)

【政府】なし(前住宅・地方自治相)

【派閥】旧「A」

【MCA 副総裁選(定員4)：立候補予想者リスト】

①フォン・チャンオン(現職：当確か、旧「A」)

②チュア・ジュイメン(現職：総裁選に立候補する可能性もあり、旧「B」)

③チュア・ソイレク(現職：書記長に転任しない場合に立候補、旧「A」)

④フー・アーキョー(現職：当確か、旧「B」)

⑤オン・ティーキエット(青年部長〔副総裁待遇〕から専任副総裁ポストを狙う、旧「B」)

⑥ティン・チューペー(書記長ポストをチュア氏に譲る場合に立候補、旧「A」)

⑦ヤップ・ピアンホン(Yap Pian Hon, Datuk, 元職：旧「B」の長老)

⑧ヨー・チャイティアム(Yeow Chai Thiam, Datuk, 副書記長：旧「B」)

⑨ホン・チューンキム(Hon Choon Kim, Datuk, ヌグリスンピラン州首席相：旧「A」)

⑩ドナルド・リム・シアンチャイ(Donald Lim Siang Chai, Datuk, MCA副財務委員長、副情報相：旧「A」)

⑪チョー・チーフン(Chor Chee Heung, Datuk, 中執委員：旧「A」)

【人物データ・ファイル】

■MCA 副総裁 Vice President

チュア・ジュイメン(蔡銳明)

Jimmy Chua Jui Meng, Datuk



旧「チームB」では政界での経歴からもリム・アーレク前総裁代理に次ぐ立場だった

が、2003年5月にマハティール首相(当時)によるMCAの「内紛調停案」に基づきリン前総裁ーリム前総裁代理がそろって引退し、「チームA」と「チームB」の「若手政治家(プリンス)」によるオン総裁ーチャン総裁代理体制が発足したため、将来のMCAトップへの道は実質的に閉ざされた。しかも、2004年3月のアブドゥラ新内閣の発足時に閣僚職(保健相)からも外された。こうした一連の措置は、現指導部の安定を保证するために、両チームの古参政治家(具体的には、旧「A」のティン・チューペー書記長と旧「B」の同〔チュア〕氏)に引退を迫る間接的な圧力だとみて間違いない。

かつては政治家としての能力と識見からもMCA総裁後継の最有力候補とみなされてきただけに、政界の間では、同(チュア)氏の憤りの矛先は、「調停案」を受諾して自らの頭越しに総裁代理に就任した旧「B」の後輩であるチャン氏に向けられているとの見方もある。そのため、最近ではチャン氏のグループからも距離を置く「第三勢力」のリーダーともみられている。

8月のMCA役員選挙では「上のポストを目指す」ことを示唆しており、総裁選に立候補する可能性がある。その場合は、党内の支持基盤が弱体化している同氏が現職のオン氏に勝てる見込みはないが、党の重鎮だけに立候補そのものが党員に与える波紋は小さくない(総裁代理選に出馬し、チュア氏に挑戦する「裏ワザ」に出るのではとの噂もある)。副総裁に留まる道を選択すれば当選の可能性もあるが、副総裁選には新たに旧「A」、旧「B」双方の若手が参入すると予想されるだけに混戦は必至だ。

※弁護士出身。閣僚(保健相)時代は行政手腕も確かで、統一マレー国民組織(UMNO)閣僚以外でマレー人主体の官僚機構を完全に掌握できる数少ない非マレー系閣僚の一人ともいわれた。また、リン総裁(当時：運輸相)に劣らぬほどその活動がマスコミで取り上げられた。

▼データ

【公職】下院議員(ジョホール州バクリ選挙区)(前保健相)

【年齢】60歳(1944年生まれ)

【生地】ジョホール州ムアル

【学歴】1970：(英ロンドン)イナナーテンブル法学院、法廷弁護士資格取得

【経歴】(英国留学以前)代用教員、経理事務員などに勤務、(帰国後)法律事務所「Chua Bros Azzat & Xavier」のパートナー、1986：下院議員に初当選、1988：政務次官、1990：

[10月] 副通産相、1995：[5月] 保健相、1999：[12月] 保健相に再任、2004：[3月21日投票] 下院議員に再選、[3月27日] (アブドゥラ新内閣人事で) 閣外へ(保健相解任)

【党務】MCA副幹事長、1996：MCA副総裁(トップ当選)、1999：[7月] MCA総裁補に再選(2位当選)(一現在)

【家族】既婚：子供5人

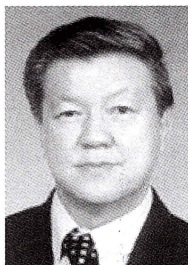
【横顔】リン前総裁、リム前総裁代理らと同様、英語を「母語」にする「紅毛尿(アンモニーサイ)」(「西洋人の糞」という意味の侮蔑語)。

*2001年に発生した華字紙「南洋商報」買収問題では、買収反対派の実質的なリーダーとしてリン前総裁と激しく対立した。

■MCA副総裁 Vice President

チュア・ソイレク(蔡細歴・医師)

Chua Soi Lek, Datuk Dr



2004年3月の総選挙で連邦下院議員に初当選した直後に、閣僚から外されたチュア前保健相(副総裁)の後任として初入閣。同4月には、前年のオン総裁-チャン総裁代理体制発足に伴い空席になっていた副総裁(2ポスト)の一人に中央執行委員会で選出された。さらに来る8月の党役員選挙後に旧「A」の重鎮、ティン・チューパー氏に替わり書記長に任命されるとみられる(書記長はオン総裁に任命権がある)。そのため、来る8月の役員選挙では副総裁選ではなく、中央執行委員選に立候補することになるだろう。旧「チームA」の「期待の星」的存在。

▼データ

【別名】チュア・キンセン(Chua Kin Seng)

【公職】保健相・下院議員(ジョホール州ラピス選挙区)

【年齢】56歳(1948年生まれ)

【経歴】精神科医。1986：ジョホール州議会議員(ペンガラム選挙区)、90：ジョホール州行政参事会(exco)メンバー、2004：[3月21日投票] 総選挙で下院議員に初当選、[3月30日] (アブドゥラ新内閣)保健相、[4月13日] (中央執行委員会により)MCA副総裁に選出

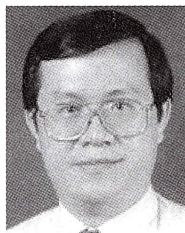
【横顔】歴代の保健相には前任者のチュア・ジュイメン副総裁を含め、政治的に下降線を辿るとのジンクスがついて回った。しかも、前任者とは同じ姓(チュア：蔡)だという因縁もある。そのため、科学者(医者)であるにもかかわらず、保健相就任後も「風水師」の指導を受けているという。

■MCA副総裁(青年部長)

Vice President/Youth Chairman

オン・ティーキエット(翁詩傑)

Ong Tee Keat, Datuk



旧「チームB」の「急先鋒」でオン総裁ら旧「チームA」幹部に対する対抗心は現在でも強いものがある。2003年5月にオン総裁-チャン総裁代理体制の発足を承認したMCA中央執行委員会にもチュア・ジュイメン副総裁らとともに欠席して反対の意思を表明した。

8月の副総裁選に立候補すれば、草の根の支持層が厚い同(オン)氏だけに、総裁に近い候補者にとっては最も厄介な対立候補となる可能性がある。

※2001年8月に発生した青年部総会での両派の乱闘や、2002年4月の「チームB」による独自の党大会開催への動きなどでは常に「実動部隊」を指揮した。1999年から現在まで副青年スポーツ相を務めている。

▼データ

【公職】副青年スポーツ相・下院議員(スランゴール州パンダン選挙区)

【年齢】48歳(1956年11月22日生まれ)

【生地】クアラルンプール

【学歴】1981：マラヤ大学工学部卒

【経歴】1986：公共事業相政務秘書官、1989：住宅・地方政府相政務秘書官、1990：下院議員に初当選、1999：[11月] 副青年スポーツ相、2004：[3月21日投票] 下院議員に再選、[3月30日] (アブドゥラ新内閣)副青年スポーツ相に再任

【党務】1987：MCA青年部中央執行委員、1990：MCA青年部書記長、1996：MCA青年部中央執行委員(一現在)、1999：MCA青

年部長(MCA副総裁)(一現在)

【横顔】気性は激しい。「チームA」を「マフィア・金権政治」と痛烈に批判したことで党紀委員会にかけられそうになったこともある。それだけに党内に熱烈な信奉者も多い。

■MCA書記長 Secretary-General

ティン・チューパー(陳祖排・博士)

Ting Chew Peh, Tan Sri Datuk Dr



旧「チームA」の重鎮であり「ご意見番」的存在。1990年から書記長を務めてリン前総裁を支えてきたが、来る8月の役員選挙を機に旧「A」の若手であるチュア・ソイレク副総裁に同ポストを譲るのとの観測が出ている。その後の進退に関して、本人は現時点では口を閉ざしている。副総裁戦に立候補する可能性があるが、その場合は同氏にとって初めて役員選挙の洗礼を受けることになり(書記長は総裁に任命権がある)、党内における同氏の本当の実力と人気が明らかになる。※苦学して教員養成学校を終了後、マラヤ大学を経て、英ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスを卒業。社会学の博士号を持つMCA内きっての学者肌の政治家。ウトゥサン・マレーシア紙、ブリタ・ハリアン紙など主要なマレー語紙に寄稿、トン・バオ誌のコラムニストも経験。91年に住宅・地方自治相に就任したが、99年にオン・カティン現総裁にそのポストを渡している。

▼データ

【公職】下院議員(ペラ州ゴープン選挙区)(前住宅・地方自治相)

【年齢】61歳(1943年6月25日生まれ)

【生地】ペラ州

【学歴】1965：教員養成学校卒、70：マラヤ大学文学部卒(マレー語学)、72：英ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスで経済学修士号取得

【経歴】1991：住宅・地方自治相、99：[12月] 閣僚(住宅・地方自治相)から退く、2004：[3月21日投票] 下院議員に再選

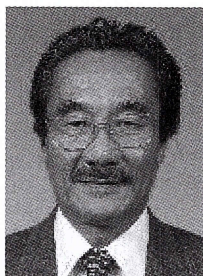
【党務】1987：MCA副書記長、90：MCA書記長(一現在)

【横顔】マラヤ大学ではマレー語学を専攻した異色の華人学者。マレー語の著書を多数出版し、一部は大学の教材にもなっている。

*1996年にリー・キムサイ総裁代理(当時)が政界を引退した時、リン総裁(同)がMCA地方組織を回り、同(ティン)氏の総裁代理就任の根回しをしたことがある。しかし、実際には当時筆頭副総裁だったリム・アーレク氏が「昇格」した。選挙になっていけば、学者肌の同(ティン)氏は草の根組織の支持を受けるリム氏に勝ち目はなかっただろう。

■ヤップ・ピアンホン

Yap Pian Hon, Datuk



旧「チームB」の古参政治家。元副総裁。「敗れても失うものは何もない」として、8月のMCA役員選挙では当選の可能性がほぼ確実な中央執行委員選ではなく、あえて副総裁選に立候補することを他の党幹部に先駆けて宣言した。副総裁への返り咲きを狙う。旧「B」の代表というよりも「党の『草の根組織』の声を指導部に届ける在野勢力」であることを強調している。

※その不屈の精神と政界でのサバイバル能力から「七転び八起きの政治家」との異名を持つ。1990年から3期にわたり副総裁を務めたが、99年の副総裁選では次点に終わった(同年の副総裁当選者は、[得票の多い順に]フォン・チャンオン[現副総裁]、チュア・ジュイメン[現副総裁]、オン・カティン

[現総裁]、チャン・コンチョイ[現総裁代理])。

▼データ

【公職】下院議員(スランゴール州セルダン選挙区)

【党務】1985：MCA中央執行委員、87：MCA青年部長(副総裁)、90：MCA副総裁(3期にわたって選出)、99：MCA副総裁選で次点

【横顔】リン前総裁に疎んじられたため、ついに閣僚ポストに推薦されることはなかった。副総裁を3期務めながら閣僚経験がない異例のMCA幹部である。

【既出データ】

■オン・カティンMCA総裁(03/06/15)

■チャン・コンチョイMCA総裁代行(03/06/15)

■リン・リョンシク前MCA総裁(03/04/15)

■リム・アーレク前MCA総裁代行(02/01/01)

■フォン・チャンオンMCA副総裁(00/02/01)

■ン・イエニエンMCA副総裁(女性部長)(03/07/15)

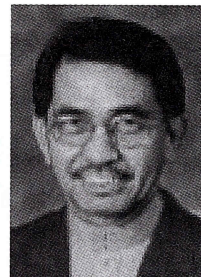
《ブルネイ》

イスマイル前開発相の収賄罪公判

首都バンドルスリプガワンのブルネイ高等裁判所では、前開発相のイスマイル・ダミット(Ismail bin Pengiran Damit)被告(57歳)を収賄罪などに問う公判が進行中である。同国で政府高官の汚職の実態が一般に公表され、公判にまで持ち込まれたのは極めて異例(注)であり、内外メディアからの注目が集まっている。

2月21日に行われた第2回公判の関係者によると、イスマイル被告は、華人ビジネスマンのウォン・ティムカイ(Wong Tim Kai)被

告(贈賄罪などで公判中)が政府の住宅建設プロジェクトなどを受注できるように便宜を図り、巨額のリバートや土地・家屋などを受け取っていた。



イスマイル前開発相

リバートは、2回に分けて支払われ、初回は135万ブルネイドル(シンガポールドルと等価：8,600万円)、2回目は390万ブルネイドル(2億5,900万円)だった。また、イスマイル被告は、ウォン被告から現金の他にも家屋9軒と広大な土地をワイロとして受け取っていた。

イスマイル被告は、12の訴因(刑法違反9件、汚職防止法違反3件)について起訴されており、有罪判決が出れば訴因ごとに2年から10年の禁固刑が科せられることになる。

(注)国王の弟の公金流用事件

ブルネイでは、90年代にボルキア国王の弟、ジェフリ・ボルキア前財務相の巨額の公金流用が発覚し、政府は2000年2月に前財務相の国内外の資産を凍結した。政府は同5月、資産返還などの条件で前財務相と和解に合意。2001年8月、前財務相の財産の一部1万点が競売にかけられ、売上げは1,300万ブルネイドル(8億3,000万円)に達した。

イスマイル前開発相の汚職事件は、政府高官の汚職が絡んだ不祥事としては前財務相の事件以来である。

(アジアリ・ンケージ 勝田 悟)

2005年版「中国の機械産業」発刊

中国機械産業の実態と主要機械製品の市場構造や競合状況など、中国企業を活用するためのデータ提供を目的としている。

2兆2,838億8,600万元——。2002年の中国機械産業生産額は前年比2割近い伸び率を示し、円換算で34兆円規模となった。21世紀最初の5カ年計画「十五(第10次5カ年計画)」でも先進技術による産業構造の最適化や開発力/高度加工能力の向上を目指しており、先進技術を保有する日本の機械メーカーへの期待はさらに高まると予想される。

日本企業にとっても中国企業は市場、資材調達先として重要な

存在。その反面、資材調達の現場では品質面や取引面でトラブルが頻出しているのも事実。現地企業対策も重要な要素となってきた。

本書は中国機械産業の実態と主要機械製品40品目(建設機械、工作機械、軸受、油圧機器など)の市場構造や競合状況を概説するとともに、厳選した優良企業の個別情報、財務、実績、相関図などを詳述。カントリーリスクを避け、中国企業を活用するためのデータを提供する。詳細は当社営業部または<http://www.jkn.co.jp>まで。